

九州北部 豪雨災害

被災者支援を急ぎ、復興に全力を挙げよ

赤嶺政賢衆院議員が災害特で質問

日本共産党

日本共産党の赤嶺政賢衆院議員は25日、衆院災害対策特別委員会で、九州北部豪雨災害について、災害支援制度を最大限活用して、被災者の救援、復興を急ぐよう求めました。(以下、要旨を紹介します)

災害救助法の適用期間の延長など、被災者支援の責任果たすべき (赤嶺)
被害は甚大。特別な対応でできるよう努力する (厚労政務官)



避難した方をお見舞いし、事情を聞く赤嶺議員(中央)ら
党豪雨災害調査団=阿蘇市、7月17日

◎赤嶺議員 流木等が流入した場合、実施できる。

◎赤嶺議員

法で、住宅の応急修理と障害物の除去、洪水や土砂災害の場合、どのような救助がおこなえるのか。

◎津田政務官

津田政務官 災害はたいへん甚大。特別な対応でできるよう努力する。

◎赤嶺議員

津田厚労省政務官 住居が半壊以上の被害をうけた場合、屋根、床、トイレとか風呂、壁、窓などの応急修理や家屋等に土砂、

制度の趣旨を、災害発生時に生かせるよう、自治体の担当者だけでなく、住民を含めて理解してもらう工夫と努力をおこなうことを要望する。

被災者生活再建支援制度の運用では、実態に則して被害認定せよ (赤嶺)
水害に対応した見直しをしている (防災相)

赤嶺議員は、被災者生活再建支援制度について、浸水等で土砂や泥に埋め尽くされた場合の被害認定について質問。中川正春防災担当相は、汚泥除去のための床板や壁板の取り外しを損害と認め、二階建ての場合、一階の損害を割り増しして算定していると述べ、「水害に対応した見直しをしている」と答弁。赤嶺議員が、被害実態に則した被害認定ができるよう判定方法を追

加することはいいかと尋ねると、中川担当相は「まさにそのとおり」と答弁。赤嶺議員は、制度の周知徹底を求めるとともに、

現行最大300万円の支援金を500万円に引き上げ、対象を拡大するよう要求。中川防災相は、「どこまで充実したものにしていくかは考えなければならぬ」と述べました。

被災地は米どころ、用水路破壊で危機的状況。農漁業の支援を (赤嶺)

◎赤嶺議員

水田には、がれきや泥が堆積し、用水路も壊れている。有明海では、がれきの流出がでていて、ノリは柳川でも大きな被害。ノリ加工設備も被害をうけている、どんな支援をするのか。

◎農水省

緊急に応急的な措置ができる査定前着工制度を大いに活用してほしい。早期に対応できるように弾力的運用をとる。人的な支援もする。

◎水産庁長官

ノリ業者の乾燥施設では、共用化して再建を図る場合、強い水産業作り交付金で支援が可能。個人の場合は、金融上の支援ができる。



河川が氾濫し、大量の土砂が流れ込んだ水田(中津市耶馬溪)

九州北部豪雨の救援・復興に全力 **日本共産党**

現地で被災者の要望を聞き、ボランティア募って生活再建へ

**日本共産党国会議員団が対策本部
仁比前参議、田村比例予定候補らが現地調査**
大分県・日田市・中津市・竹田市



地元議員らと調査する仁比前参院議員（左）=7月5日、大分県日田市

日本共産党は、赤嶺政賢衆院議員を本部長とする九州北部豪雨災害対策本部を立ち上げ、仁比聡平前参議が、7月5、6日に引き続き19日にも日田、中津両市に入り、党市議団とともに被災者のお見舞いと現地調査をしました。

23日には、田村貴昭衆院比例予定候補が仁比



被災した竹田市で話を聞く仁比前参院議員（右側）と田村比例予定候補（左となり）たち=7月23日

氏や堤榮三県議らとともに竹田市内を聞き取り調査しました。

赤嶺衆院議員は、これらの調査と党議員団調査の熊本・阿蘇市調査などを踏まえ、7月25日の衆院災害対策特別委員会でも質問。政府の迅速な対応を迫りました。（表面参照）

熊本県・阿蘇市 ボランティア・訪問・「働き隊」の行動に50人

日本共産党九州北部豪雨救援センターは、28日、29日の土日、ボランティアの派遣と被災者訪問行動を実施。さらに訪問のなかで出された泥出しの要望に応える「働き隊」に、二日間で述べ50名が参加しました。行動には、2泊3日で大阪から駆けつけて来られた方も。鹿児島地区からも4名参加されました。

話を聞きに来てくれてありがとうございます

訪問行動には、二日間で16名、300軒を訪問。多くのところで「市も誰も来てくれない。あなたたちが、はじめて話を聞きに来てくれた。本当にありがとう」という声が寄せられました。「知人が飲食店を解雇に」「床下の水が抜けない」「商品の仕入れで400万かかったものがすべて台無しに」・・・災害時の恐怖、片付けのすすまない家の問題、今後の生活など話は止まりませんでした。歩いている訪問チー



ゴミ出しを手伝うボランティアのみなさん=阿蘇市

ムに「消毒薬が配布されているが使い方の説明がない。わかりませんか」というお尋ねも。28日の訪問行動には、民医連からも6名が参加。共同して訪問に取り組みました。民医連の訪問チームは血圧計も持参し、高齢の方の血圧測定や健康相談にも取り組みました。参加した看護師から「特に高齢で独居の方の支援が急務です」との感想も寄せられました。

「地元産材を利用しての戸建ての仮設住宅」「市独自のつなぎ資金の支給」をはじめ、訪問のなかでされた被災者の声も含めた市への要請を29日、第3次分として提出しました。

（日本共産党九州北部豪雨救援センターの「救援センター便り7月29日号」より）

福岡県・八女市星野村 東日本大震災の「連帯力」を今回の豪雨災害でも発揮

日本共産党福岡県委員会では、地元の議員や地区委員会と連携、九州北部豪雨災害ボランティアを募って救援行動。7月22日には、八女市星野村と上陽町に民青同盟福岡県委員会、日本共産党筑後・大牟田両地区委員会の災害ボランティアが支援に入りました。東日本大震災災害ボランティアにも参加した青年や北岡あや大牟田市議、井上護大木町議、江藤龍彦前広川町議らが泥出しなどの復旧作業にあたりました。



床下の泥出しを手伝う青年ボランティア=八女市

想像以上の被害の大きさに驚いた。なぜメディアはこれを報道しないのか。帰ったら伝え、ボランティアを広げていきたい。

支所に22人しか公務員がいなかったからできることは限られているのではないか。合併の影の部分が見えた。現地の人は「ここは災害など、今まで全然なかったんだけどな」と言っていたが、予防策は必要だから予算を割くべきだ。

青年ボランティアの感想

・自然災害は、東日本大震災の時もそうだが他人事ではない。自分のところでもありうるし、あった時に何もしいというのはいらない。あんまり力になれなかったけど、ちよつとも喜んでもらえたのなら参加できて本当に良かったなと思う。

用水ポンプの燃料代も災害復旧事業費に含められる



山下芳生参院議員

日本共産党の山下芳生議員は7月27日の参院災害対策特別委員会、九州北部の豪雨被害について、現行制度をすべて活用し支援するよう求めました。

山下氏が「用水ポンプの燃料代も応急復旧の工事の対象になるのでは」とただしたのに対し、農水省担当者は「災害復旧事業費に含めることができる」と答えました。